

報道関係者各位

鬼の目とツノ、“縦の道”を螺旋で表現 文化・子育て複合施設「おにクル」のマーク、ロゴを作成

茨木市では、令和5年秋に開館予定の文化・子育て複合施設「おにクル」のマークとロゴを作成しました。今後、建物のエントランスや各種サイン、冊子類等で使用するほか、グッズの作成等、デザイン性を活かした展開を検討していきます。

なお、各デザインは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、史上初めて採用された「動くピクトグラム」を手掛けた廣村デザイン事務所によるものです。

■マーク (①)

力強い鬼の目と広がりを感じられるマークとなっています。鬼の目とツノ、7層のフロアを貫く吹き抜け空間“縦の道”を俯瞰した様子を螺旋で表現し「おにクル」が本市のシンボルとして大きな存在になるようにとの思いが込められています。



■ロゴ

【和文ロゴ (②)】筆文字ベースの「おに」と、ゴシック体ベースの「クル」を組み合わせ、丸みのある造形と直線的な造形を対比させることにより、「おにクル」という言葉が持つ、独特で親しみがある響きを表現しています。

【欧文ロゴ (③)】直線と正円を主とした骨格をベースにしながらも、「N」「U」「R」のエッジに表現を持たせることで、和文との統一感や、ロゴ全体としてのリズム感を生み出しています。

■福岡洋一市長コメント

おにクルらしい、親しみやすさと力強さを感じられるロゴとマークが出来ました。市民の皆様幅広く知っていただくため、積極的に活用していきます。

■活用イメージ

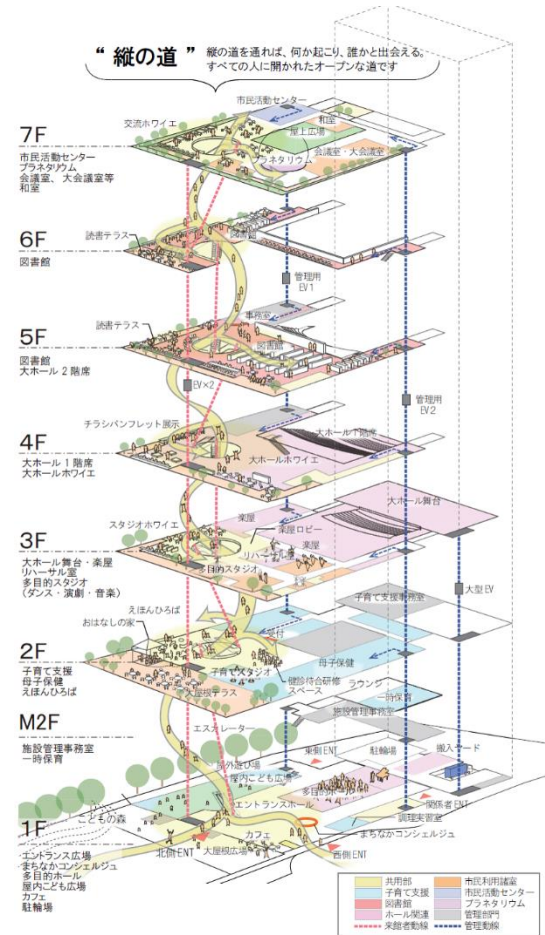


【参考】文化・子育て複合施設「おにクル」の概要



おにクル完成イメージ

- 茨木市役所前の市民会館跡地エリアに令和5年秋に開館予定の新施設・広場。
- ホールや図書館、子育て支援、プラネタリウム、市民活動センター、芝生広場など、様々な機能を備えた複合施設。
- 公募と市民投票を経て決定した名称「おにクル」は、当時6歳の子どもが命名。まちなさまざまな場所で目にする鬼のキャラクター「いばらき童子」を見て、「怖い鬼さんですら楽そうで来たくなっちゃうところ」という意味を込めたといひます。
- 伊東豊雄建築設計事務所が設計を手掛けており、7階建ての各フロアを貫く吹き抜けをエスカレーターがつなぐ「縦の道」が特徴的な建物。
- 施設の設計コンセプトは、「日々何かが起こり、誰かと出会う」。「縦の道」によってそれぞれの機能が混ざり合い、日々いろんなことがいろんな場所で起きていることが何となく五感で感じられる、誰もが過ごしやすく、訪れたいくなる「立体的な公園」のような場をめざしています。
- 平成27年12月の元市民会館の閉館以降、市民の皆様と対話を通じて導かれた市民会館跡地エリア活用のキーコンセプトは『育てる広場』。市は市民が「使いたくなる場」を提供し、使い方や活動等は市民自身で作り上げていく考え方のもと、様々な取組みを積み上げてきました。
- 現在、開館に向けて、期待感醸成と開館周知のために、さまざまなプレ事業を実施中。おにクルに備わる異なる機能同士（例：子育て×図書館）の連携事業など、おにクルらしい企画を数多く展開しています。



“縦の道”は、回遊するように7層のフロアをつなぎ、人に出会いをもたらします